

学会録事

1. 第2回海産外来種研究委員会報告

第2回海産外来種研究委員会が2010年5月8日(土)、東京海洋大学で開催され、研究会を構成する3学会(日本藻類学会、日本プランクトン学会、日本ベントス学会)の代表者が参加した。当学会からは川井浩史(神戸大学)、堀口健雄(北海道大学)の両会員が出席した。議事内容は以下の通り。

1) 情報の収集および取りまとめ方法: 外来種情報に関するアンケートを各生物群(ベントス、プランクトン、大型動物プランクトン、藻類、赤潮藻類など)を単位に実施し、その結果をレビュー、公表することを合意した。具体的にはこれからアンケートフォーマットの案を作り、各委員に回し、その後ダイレクトメール方式で研究者、在野の研究者に配付、回答を依頼する。回答を集計し、レビューを加えて公表・出版する。この際、データは証拠資料(写真または標本)があるものを原則として収集する。目撃情報など証拠資料がないが重要と考えるものについては、レビューを行う執筆者の判断で採用・記述する。この際、外来種であるか否かの判断を行った根拠となる情報(出典)、遺伝子情報の有無などを可能な限り記述することとする。公表論文は執筆者の個人名で投稿する。

2) 成果の公表方法: 本研究委員会にかかる成果を論文化した場合には、審査を経た後にいずれかの学会の和文誌に掲載することとする。今年度の成果については、タイミング的に来年度発行の藻類またはプランクトン学会誌をターゲットとして考えることで合意した。また、3学会合同で外来種に関するシンポジウムを開催し、研究委員会の活動やその成果を広くアピールすることとした。これについては2011年4月ごろの開催を目処に準備を進めることとした。

3) 委員長の選出: 委員長と副委員長(翌年度の委員長)の選出について討議し、2010年度は風呂田(ベントス学会)が委員長、川井(藻類学会)が副委員長(翌年度の委員長)を務めるということで合意した。また委員長の選出は原則として参加学会持ち回りとするを申し合わせた。

4) 3学会以外の加入について: 本研究委員会への参加学会の取り扱いについて討議し、事前の打診で参加について積極的であると判断された付着生物学会、甲殻類学会、貝類学会などに参加を打診することとし、参加の意志があれば次回会合からの参加を認めることで合意した。

5) その他: 本研究委員会にかかる費用については、本研究委員会からは経費負担できないので、アルバイトの使役は必要であれば各参加学会において行うこととすること、ボランティアの場合は貢献の度合いにより成果論文の共著者などの扱いとすることを確認した。また、旅費や文献購入についても必要な場合には各学会で負担することで合意した。

2. 日本藻類学会第34回大会報告

(1) 日本藻類学会第34回大会

上記大会を2010年3月19日(水)～22日(月)に筑波大学筑波キャンパスで開催した。

大会1日目は、午前にワークショップI「藻類30億年の自然史」(講義形式、講師:井上勲氏)を筑波大学総合研究棟で行い、午後は、編集委員会および評議員会を筑波大学生物農林学系棟にて行った。2日目は、筑波大学第2エリア2A、2B、2C棟において、口頭発表(2会場)およびポスター発表(奇数番号)を行った。その後、日本藻類学会総会を行い、総会終了後、第2エリア大食堂にて懇親会を催した。3日目は、口頭発表およびポスター発表(偶数番号)を行い、午後3時より公開シンポジウム「未来を拓く藻類エネルギー」(演者:渡邊信氏、河地正伸氏、田中剛氏、近藤昭彦氏)が行われた。また、エキスカッション「昭和天皇の生物標本コレクション」(世話人:北山太樹氏)が行われた。3日目午後と4日目には、ワークショップII「藻類色素のHPLC分析入門」(講師:宮下英明氏)を国立環境研究所環境生物保存棟で開催した。

大会の開催にあたり、大会会長の笠井文絵氏、大会実行委員会の渡邊信氏、井上勲氏、白岩善博氏、宮村新一氏、鈴木石根氏、石田健一郎氏、岩本浩二氏、横山亜紀子氏、中山剛氏、河地正伸氏、北山太樹氏、大村嘉人氏、筑波大学の研究員、大学院生および学生諸氏等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 編集委員会・評議員会

3月19日(水)午後3時より筑波大学生物農林学系棟にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

英文誌については、峯英文誌編集長から「Phycological Research」の2009年度、2010年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2009年度は総頁数331頁、掲載論文数35編であったことが報告された。2010年度については58巻1号に9編が掲載され、2号に9編の掲載予定で、58巻3号以降の受理論文数は3月18日現在3編であることが報告された。また、2008年のインパクトファクターが0.955であり、2007年の0.836から上昇したことが報告された。2010年からの新編集体制についての紹介があった。編集方針、投稿案内の内容、出版社の提供するサービスについて審議が行われた。Wiley-Blackwellの柏村愛氏から2009年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。

和文誌については寺田和文誌編集委員長より「藻類」57巻および58巻の編集状況に関する報告があった。2009年に発行された57巻には3編の原著論文や総説のほか、学会講演要旨や企画記事等が掲載され、総頁数は512頁(1号増補350頁を含む)であったことが報告された。58巻の刊行計画、編集方針について説明があり、審議が行われた。外来種研究委員会からの記事の掲載、和文誌の著作権ポリシー、ホームページの充実に関して審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて午後4時30分より行われた。2010年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2010年度総会

大会2日目(3月20日)のポスター発表終了後、午後5時30分から口頭発表A会場において総会を行った。堀口会長の挨拶の後、田中次郎氏(東京海洋大学)を議長に選出し、議事に入った。

【報告事項】

・庶務関係

(1) 会員状況(2010年2月1日現在): 名誉会員5名, 普通会员956名(国内・一般645名, 国内・学生153名, 外国158名), 団体会員49名, 賛助会員11名, 「藻類」国内購読8件, 「藻類」国外購読4件。

(2) 2009年度事業報告: 1) 日本藻類学会第33回大会・評議員会・総会(琉球大学千原キャンパス, 3月26日~29日)の開催, 2) 和文誌「藻類」57巻1号, 1号増補, 2号, 3号の発行, 3) 英文誌「Phycological Research」57巻1~4号の発行, 4) 第12回日本藻類学会論文賞の授与(池谷仁里氏, 林隆久氏, 加来友美氏, 岩田和佳氏, 園部誠司氏, 新免輝男氏)と第13回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第5回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与(佐藤晋也氏)と第6回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 6) シンポジウムの共催: 「藻類を通じた環境教育と藻類資源利用の現状と展望」(11月7日(土), 福井県立大学小浜キャンパス交流センター), 7) 第12回マリンバイオテクノロジー学会大会(5月30日~31日, 早稲田大学大久保キャンパス)への協賛, 8) ワーク・ショップI「藻類観察の技術講習 - 電子顕微鏡(免疫電顕法・ホールマウント法), 蛍光顕微鏡(FISH法)」(3月26日, 琉球大学理学部), および, ワークショップII「沖縄の海藻と微細藻の観察採集会」(3月28日, 琉球大学瀬底実験所)の開催, 9) 第9回国際藻類学会議(IPC9, 8月2日~8日, オリンピック記念青少年総合センター)の共催。

(3) 自然史学会連合総会, 日本分類学会連合の総会およびシンポジウムについて

・会計関係

(1) 2010年2月1日現在の2009年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は, 普通会员(国内・一般)93.5%, 普通会员(国内・学生)78.0%, 普通会员(外国)69.9%, 賛助会員84.6%, 団体会員66.6%であった。

(2) 2009年度一般会計決算等, その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2009年度に発行した英文誌「Phycological Research」57巻1-4号は, 総頁数331, 掲載論文数35編であった。

(2) 2009年度に発行した和文誌「藻類」57巻1-3号は, 総頁数521頁(1号増補350頁を含む), 内訳は原著論文・総説3編, その他であった。

これらに関連した詳細については, 前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・庶務関係

(1) 2010年度事業計画として以下の事項が承認された:

1) 日本藻類学会第34回大会・評議員会・総会(筑波大学筑波キャンパス, 2010年3月19日~3月22日)の開催, 2) 和文誌「藻類」58巻1~3号の発行, 3) 英文誌「Phycological Research」58巻1~4号の発行(1, 4, 7, 10月発行), 4) 第13回日本藻類学会論文賞の授与と第14回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第6回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与と第7回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 6) 藻類学ワークショップI「藻類30億年の自然史」(2010年3月19日, 筑波大学筑波キャンパス), および, ワークショップII「藻類色素のHPLC分析入門」(2010年3月21, 22日, 国立環境研究所環境生物保存棟)の開催, 7) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施, 8) 千葉県立中央博物館 企画展, 関連学術研究集会, 記念講演会の後援: 企画展「海藻, 35億年の旅人」(2010年7月3日~9月5日, 千葉県立中央博物館), 関連学術研究集会「一宮部金吾生誕150周年記念ー日本における藻類学は今!」(2010年7月17日, 千葉県立中央博物館), 記念講演会「藻類30億年の自然史」(2010年8月8日, 千葉県立中央博物館)。

・会計関係

(1) 2009年度一般会計決算報告および同監査報告(会計監事: 工藤利彦会員, 四ツ倉典滋会員)は, 表1の通り承認された。

(2) 2009年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は, 表2の通り承認された。

(3) 2009年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は, 表3の通り承認された。

(4) 2010年度一般会計, 山田幸男博士記念事業基金特別会計, および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は, 表4, 表5および表6の通り承認された。

・その他

(1) 日本藻類学会第36回大会(2012年)の開催地を北海道大学(札幌市)とすることが承認された。

(2) 日本藻類学会論文賞の対象巻号について, 第14回(2010年)は57巻4号, 58巻1~4号を対象とし, 第15回(2011年)から同年の1~4号を対象とすることが承認された。

(3) 和文誌「藻類」の著作権および著作権ポリシーについて, 事務局案が説明され, 審議の結果, 再度事務局で案を作り持ち回り評議員会に諮ることとなった。

(4) 電子メールによる会員への連絡体制の整備に関して, 試験的導入として希望者に限り, 重要ではないが会員に利益のあるお知らせを電子メールにより送る体制を作ることが承認された(本号の巻頭お知らせ参照)。

(5) 日本藻類学会創立60周年記念行事企画ワーキンググループ(責任者: 神谷充伸氏, 北山太樹氏)の設置が承認された。

表 1. 2009 年度一般会計決算 (2009.1.1 - 2009.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	6,756,000	和文誌経費	4,174,200
普通 (国内・一般)	4,619,000	英文誌経費	6,488,675
普通 (国内・学生)	325,000	編集費	49,788
普通 (外国)	432,000	和文誌編集補助費	49,788
団体会員	1,020,000	英文誌編集補助費	0
賛助会員	360,000	庶務費	254,276
和文誌関係収入	3,053,978	事務用品費	18,699
定期購読	94,950	会議費	23,828
バックナンバー	44,250	通信印刷費	165,109
別刷・超過頁代	2,874,150	諸雑費	46,640
広告代	40,000	幹事旅費補助	14,400
和文誌版權還付金	628	大会補助費	120,000
英文誌関係収入	533,364	自然史学会連合分担金	0
超過頁代	0	分類学会連合分担金	10,000
掲載料	252,000		
版權還付金	281,364		
受取利息	5,835		
寄付金	80,000		
小計	10,429,177	小計	11,111,339
前年度繰越金	10,831,297	次年度繰越金	10,149,135
合計	21,260,474	合計	21,260,474

表 2. 2009 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2009.1.1 - 2009.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息		論文賞用雑費	2,419
普通預金 (三井住友)	352		
定期預金 (三井住友)	233		
普通預金 (北洋)	141		
小計	726	小計	2,419
前年度繰越金	2,593,978	次年度繰越金	2,592,285
合計	2,594,704	合計	2,594,704

【日本藻類学会論文賞授与】

第 13 回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは 2008 年から 2009 年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol. 56 (4), vol. 57 (1) - (3) の中から、規定により審査員の投票によって選ばれ、総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者に賞状が授与さ

れた。

Kazuhiko Koike & Kiyotaka Takishita
Anucleated cryptophyte vestiges in the gonyaulacalean dinoflagellates *Amylax buxus* and *Amylax triacantha* (Dinophyceae). Phycological Research 56(4): 301-311 (2008)

表 3. 2009 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2009.1.1 - 2009.12.31)

収入 (円)			支出 (円)	
受取利息	普通預金 (三井住友)	255	奨励賞賞金	100,000
	定期預金 (三井住友)	1,801		
	普通預金 (北洋)	102		
小計		2,158	小計	100,000
前年度繰越金		1,804,345	次年度繰越金	1,706,503
合計		1,806,503	合計	1,806,503

日本藻類学会 2009 年度決算書に対し記名捺印する 2010 年 3 月 9 日

2009 年度 会 長 堀口 健雄 印

2009 年度 会計幹事 阿部 剛史 印

決算書が適正であることを認める

2010 年 3 月 11 日

2009 年度 会計監事 工藤 利彦 印

2010 年 3 月 9 日

2009 年度 会計監事 四ッ倉 典滋 印

表 4. 2010 年度一般会計予算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)			支出 (円)	
会費		6,224,400	和文誌経費	1,832,700
普通 (国内・一般)	4,088,800		英文誌経費	6,605,400
普通 (国内・学生)	441,750		57(4)	1,338,400
普通 (外国)	468,350		今年度見込	5,267,000
団体会員	912,000		編集費	300,000
賛助会員	313,500		英文誌編集補助費	200,000
和文誌関係収入		625,050	和文誌編集補助費	100,000
定期購読	103,950		庶務費	350,000
バックナンバー	28,500		事務用品費	20,000
別刷・超過頁代	372,000		会議費	30,000
広告代	120,000		通信印刷費	250,000
著作権許諾料金	600		諸雑費	50,000
英文誌関係収入		460,000	幹事旅費補助	25,000
超過頁代	0		大会補助費	120,000
掲載料	180,000		自然史学会連合分担金	20,000
版權還付金	280,000		分類学会連合分担金	10,000
受取利息		1,000		
寄付金		100,000		
小計		7,410,450	小計	9,263,100
前年度繰越金		10,149,135	次年度繰越金	8,296,485
合計		17,559,585	合計	17,559,585

表 5. 2010 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	4,000	論文賞用雑費	1,000
前年度繰越金	2,592,285	次年度繰越金	2,595,285
合計	2,596,285	合計	2,596,285

表 6. 2010 年度研究奨励賞事業特別基金会計予算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	2,560	奨励賞賞金	100,000
前年度繰越金	1,706,503	次年度繰越金	1,609,063
合計	1,709,063	合計	1,709,063

【日本藻類学会研究奨励賞授与】

第 6 回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は神川龍馬氏（筑波大学生命環境科学研究科微生物分子進化学研究室、微細藻類における遺伝的多様性の検出とその応用に関する研究）が選ばれ、賞状および副賞（賞金 10 万円）が授与された。

3. 2010 年度日本藻類学会第 1 回持ち回り評議員会報告

2010 年 5 月 19 日から 28 日の期間において第 1 回持ち回り評議員会を開催し、下記の案件について審議を行った。その結果、審議事項 1 および 2 ともに、国内評議員 17 名中 11 名から回答を得、回答者全員の賛成により了承された。

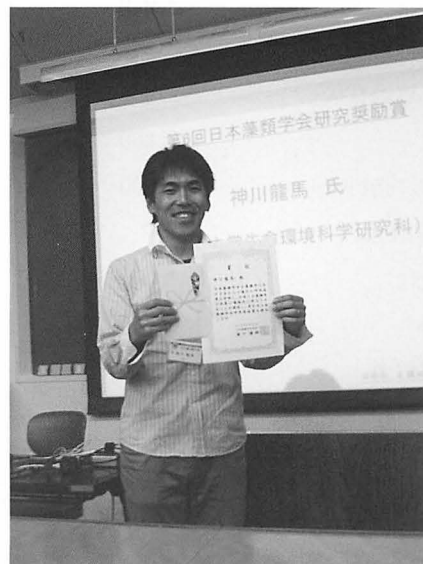
審議事項 1-1.「藻類 (Japanese Journal of Phycology)」の著作権を日本藻類学会が明確にもつこと。そのために、「藻類」投稿規定に論文・記事等のすべての著作権は、日本藻類学会に帰属することを明記すること。過去の著作権については、公告により著作権の委譲について説明し、期日までに申し出がない場合は著作権の委譲を了承したものとすること（本号の巻頭公告を参照）。

審議事項 1-2.「藻類」の著作権ポリシー（公開の方針）案について（承認された著作権ポリシーについては日本藻類学会ウェブページを参照）。

審議事項 2. 日本藻類学会プライバシーポリシー案について（承認されたプライバシーポリシーについては日本藻類学会ウェブページを参照）。



論文賞受賞者の小池氏（代表）と堀口会長



奨励賞受賞者の神川氏